

■辰巳天中殺の人との人間関係

堅実な人生の歩みを大切にする子丑天中殺にとって、次々浮かぶアイデアや考えを追って変化をしていくような辰巳天中殺は、人間的には格別相性がいいわけではありませんが、不思議な事に仕事上だけは子丑天中殺に発展をもたらして呉れる相手が辰巳天中殺です。

仕事上では子丑天中殺に発展をもたらして呉れる相手が辰巳天中殺なのですが、とくに、辰巳天中殺が上役、子丑天中殺が部下(目下)という関係ですと「天上」欠落の辰巳天中殺の星は、世間の常識からはみだしていく力を持っていますから、気にいったとなれば、年功序列など一切無視で、ぐんぐん引き立ててくれます。しかし、出世とか引き立てられるという面では良い相性の天中殺ですが、この関係は子丑天中殺を激しく消耗させることになります。(気分のままに忙しく行動するマイペース型の辰巳天中殺と、ゆったりと人生を歩みたい子丑天中殺とではベースが合いません。この関係は辰巳天中殺を親に持った子丑天中殺の子供との関係と同じです。)

反対に、辰巳天中殺を部下に持つと、そのルール無視の態度や”けじめ”の無さが気になって、とても引き立てる気持ちにはなれないでしょう。
発想も斬新で、忙しい仕事も平気にこなす良い部下には違いないと思うのですが、イザとなると後まわしにしてしまいがちになるのです。

子丑天中殺の人が辰巳天中殺の子供を持つと、その子供は親の思うようにはならず、家からも離れるような生き方をすることになります。(親からすれば、気掛かりな子供ではあるが、子供にしてみれば家から離れて気ままに暮らしたり、子供自身、自分の道をさがして人生を歩むだろう。例題として、俳優の、今は亡き名優「宇野重吉」さんとお子さんで俳優の「寺尾聡」さんのケースが挙げられます。若いときの寺尾さんは、かなりのわがままで、父親に心配をかけていたのは有名な話です。)

恋愛や結婚の場合。どちらが男性でも女性でも同じです。親の恩恵を受けにくい初代運の子丑天中殺と家系からはみだしていく辰巳天中殺の組み合わせの二人ですから、その宿命は増幅されることになり、親との関わりあいを通り切ったからの出発が運命づけられることになります。つまり、子丑天中殺が、親子の縁も財産も何もかも捨てて、辰巳天中殺のもとへ走ってしまうということになりやすいのです。

反対に、親の跡もつぎ、財産も受け継いで、この二人が結ばれたとなると、これは宿命の本質に反しているので、必ずどこかの時点で総てを失うことになるでしょう。
算命学では、古来からこの形ちを「家運没落の関係」と語り伝えられている所以なのです。

北方欠落の子丑天中殺は、無から出発してこそ「無から有を生む」宿命の星であり、それが、天上欠落の辰巳天中殺との関係は名誉も、財産もないゼロ(無)からの出発なら、良い結婚の相性となることでしょう。